

2019年度愛媛県障害者相談支援従事者初任者研修

相談支援の基本姿勢

相談支援センター 星の里
相談支援専門員 菅野和久

テキスト参照ページ

テキスト P160～P174

6 相談支援の基本姿勢

障害者相談支援従事者 初任者研修テキスト

相談支援専門員

サービス管理責任者
児童発達支援管理責任者

「障害者ケアマネジメント」

本人に意味のある計画をたて
本人の思いを軸に支援を展開する

「相談支援の基本姿勢」の獲得目標

相談支援において
重視すべき**理念等**について理解する

大切なキーワード P160～174

- ①ノーマライゼーションの実現②自立と社会参加③主体性、自己決定の尊重・支援④地域における生活の個別支援⑤エンパワメント・ストレングス視点⑥権利擁護…

事例 Tさん

行政担当者から電話

- 「障害年金の手続きを手伝ってあげてほしい・・・今、〇〇病院にいるがトラブルがあったようなのですぐ向かってほしい・・・」
- 40代男性 働いていた鉄工所を辞めた。過去に療育手帳を所持していた経歴あり。障害年金申請のため支援をしてほしい・・・

理念とは「やり方の前に大切なもの」

- 世の中、仕事でも掃除でも、子育てでも、何にでも「やり方」があります。
- 「やり方」の前にもっと大切なものがある。それは、「やり方」の土台となる**「あり方」**です。
- 「あり方」とは・・・**「心のあり方」**
- **「どんな思いで」「どんな心構えで」**そして・・・**「何のために」**やっているのか、ということ。

主人公はだれですか？

(チェーホフ『手帳』の中に出てくる話の紹介)

「ある控え目な男のためにお祝いの会が開かれた。集まった人々は、ちょうどいい機会とばかりに、てんでに自慢話をするやら、褒めあいをするやらで 時間の経つのを忘れた。 食事も終わろうというころになった人々が気が付いてみると・・・当の主人公を招くのを忘れていた」

「相談」とは何か？

お隣の方と1分間話し合ってください。

- 「互いに意見を話し合うこと。談合。他人に意見を求めること」 (広辞苑)
- 「意見を述べ合うこと。話し合い」
(角川国語辞典)
- 「問題の解決のために話し合ったり、他人の意見を聞いたりすること。また、その、その話し合い」 (大辞泉)

…をするのは、誰ですか？

主語は『本人』…

本人が中心の相談でなければならない。

「ちがう立場で考えてみる」

- 当たり前に使われる「めでたし、めでたし。」が、異なる視点からみればそう言えないのでは？
- ある人にとってしあわせと感じることで、別の人からみればそう思えないことがある。
- 反対の立場に立ってみたら。ちょっと長いスパンで考えてみたら。別の時代だったら・・・
- どの視点でその対象を捉えるかによって、しあわせは変わるものではないか・・・

相談支援が本人中心の視点で
「めでたし・めでたし」なることが大事

「エンパワメント」と「支援」

ソーシャルワーク実践では「個人、家族、グループ、地域社会が自身の個人的、対人的、社会経済的、政治的パワーを強め、またそれらの環境の改善にむけた影響力を増していけるよう援助する過程」

Baker,R(2003).The social Worker Dictionary(5thed).NASW Press,Press,p142

(補足)

• 阻害するものがなければ、もともと「個人」「家族」「グループ」「地域社会」は“かけがえのない、そのものらしさ(内なるパワー)をもっている

• 支援(援助)は、外からパワーを付け加えるというのではなく、そのものが本来の力を発揮できるように阻害してるものを取り除く関わりといえる

バイステックの7原則

1. クライエントを個人として捉える
2. クライエントの感情表現を大切にする
3. 援助者は自分の感情を自覚して吟味する
4. 受け止める
5. クライエントを一方向的に非難しない
6. クライエントの自己決定を促して尊重する
7. 秘密を保持して信頼感を醸成する

“変える”対象の変遷と可能性の拡がり

1: 以前は・・・障害は“個性的なもの”とされてきた

→しかし、その“利用者そのものを変える”支援には限界

2: 次に環境との相互関係“社会化”のなかで考えられるようになった

→しかし、その“環境を変える”支援もなかなか進まない

3: これからの方向は“可能性”

→“支援者の意識を変える”ことでの支援と可能性の拡がりに期待

《キーワード》ストレングス視点、リフレーミングスキル

*問題点に着目し過ぎるとサービスの当てはめになりやすい

*ストレングスに着目すると利用者の力、環境(支援者も含めて地域)の力を発揮しやすい

人の心を動かす、相談支援とは

相談支援（障害者ケアマネジメント）
は、本人の「～したい」を引き出し現実に導く、という目的を果たすための方法論。

「人が動くときは、心が動くとき」
→ **本人**にとって
意味のある「支援計画」作成に
必要なことは何か？

「思い」が「問い」を生み、 「問い」が「支援」を連れてくる

- まず利用者や社会に対する支援者の「思い」(専門性)が必要である
- その支援者の「思い」が、正しい「問い」を生み出す
- その正しい「問い」は、支援者が「あれやこれや」を考える推進力を生み出す
- そしてその「あれやこれや」が、その時その地域で考えうる最高の支援(資源)を連れてくる
- さらにその時その地域で考えうる最高の支援(資源)は次なる支援(資源の改善や開発)を促す導火線となってゆく。



第4回 全国小・中学生

障がい福祉ふれあい 作文コンクール

テーマ

障がいのある方とふれあって

くわたくしにとつての障がい福祉

小・中学生の皆さんが、口頃の生活やボランティア活動の中で、体験したこと、感じたことなどがテーマです。
思いやりや助け合い、優しい気持ちや温かい気持ちになっただこと、感動したことなどを自由に書いてください。



応募締切
平成29年
9月15日(金)
消印有効



ノーマライゼーションの実現

P173ノーマライゼーションの実現

相談支援とは、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の第1条、第1条の2(目的、基本理念)にある「**障害者及び障害児が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう**」な**手立ての1つ**です。その目指す先には、「すべての国民が、**障害の有無にかかわらず**、等しく基本的人権を享有するかけがえのない**個人として尊重される**」という**社会**があり、それは**ノーマライゼーションの実現**ともいえます。

- ①**相手が何を「ノーマル」と思うのか、見たり、聞いたりして知っていくこと**
- ②**それを実現するための方法を考えること**

サービス等利用計画の“等”はなぜついているのか？

- 同じ人を見ても、価値観や経験、立場の視点の違いにより「**見ているもの**」は同じでも、「**見えるもの**」が違ったり、「**見えていない時**」がある。
- 同じ人への印象でも、「**立ち位置**」や「**専門性**」が違くと、**全く違う人**に見えている事がある。そのことを知っている事が大事。
- だから、いい支援は「**一人でつくる**」より、「**複数の人の視点**」を合わせた方がいいものができる。

地域生活支援＝チームアプローチ

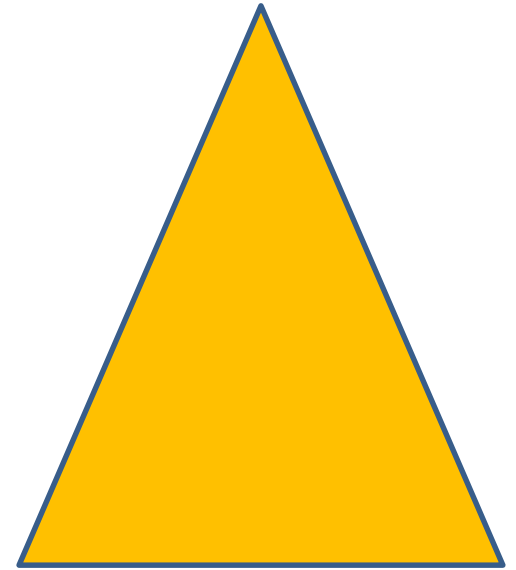
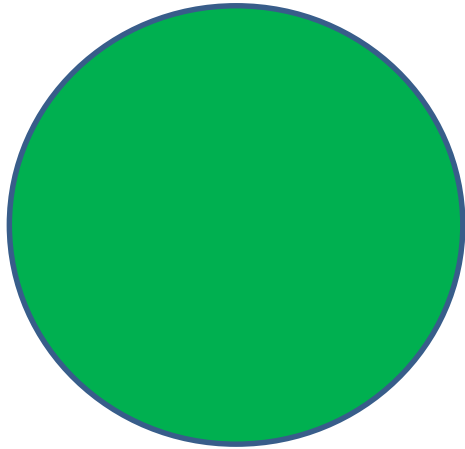
リフレーミングスキル

一見、ネガティブに見える情報への
新たな意味づけ

Aさん:これは●です。

Bさん:これは▲です。

どちらも正しい。一体どんなカタチ？



・・・自分がみている面だけが
正しいとは限らない・・・

「彼がその物事をどの方面から眺めているかに注意しなければならない。彼が見る方面からは真である。それを認めただ上で、誤っているほかの面を見せることだ」

フランスの哲学者 パスカル
(前田陽一・由木唐訳)

リフレーミングスキル

一見、ネガティブに見える情報への新たな意味づけ

援助者にとって一番のツールは“感じる自分”援助者の視点のフレーム(見方)が変わればおのずと理解も変わる。

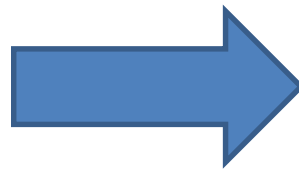
困難とも思える状況の中に課題解決の活路を見出したり、欠点だと思っていたものの中にストレngthsを再発見できることもある。

ネガティブ表現をリフレーミング ストレングスを発見する

①神経質で細かな
ことを気にする

②「日曜日にスリッ
プ(再飲酒)して
しまった」

③「身なりが汚い」



①細かいことにも
気がまわる

②「土曜日までは
断酒できた」

③「清潔保持が上
手でない」

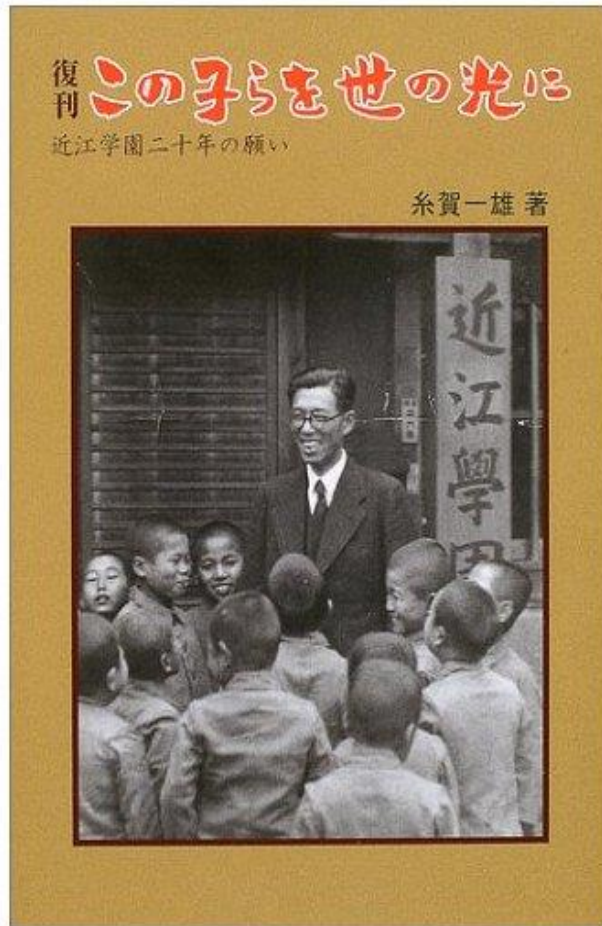
リフレーミングからの学び

- 「金銭管理ができない」
→可能性の否定、思考の停止(問いは生れない)
- 「金銭管理が上手でない、苦手である」
→可能性の肯定、可能性の発展、途中だと捉える視点

《発展する思考・・・(3つの問い)》

- 今、セルフケア能力はどれくらいだろうか？
→できるところ(やれる部分)に目を向ける
- 今後、どのような工夫があればやっていけるのか？
→補う視点で支援を考える ←全ては支援次第だという発想
- (ところで) 今まで、どのような工夫をしてきたのですか？
→これまでのチャレンジ(取り組み)の評価・振り返り

20世紀を代表する実践的福祉思想家 糸賀一雄先生



「糸賀一雄著作集Ⅲ」より

『この子らに世の光を』あててやろうという哀れみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよ磨きをかけて輝かそうというのである…

『この子らを世の光に』である。

ご清聴ありがとうございました
<(_ _)>